

安心して暮らせるまちづくりのために 栄・防災ボラネット通信

発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

29号
2019-07

2019 年度 定期総会報告

日時：2019 年 4 月 20 日（土）13:30～14:20 場所：栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室

出席者：35 名（10 団体、個人 15 名、来賓 2 名、区役所 3 名、社協 3 名、ケアプラザ 2 名）

議事録署名人：菊地賢三氏、高橋隆蔵氏

来賓：磯崎 保和氏（栄区連合町内会長）井上 弘毅氏（栄区役所総務課課長）

<第 1 部> 総会

第 1 号議案 2018 年度事業活動報告

第 2 号議案 2018 年度会計報告・会計監査報告

第 3 号議案 2019 年度役員改選 及び 運営委員紹介

第 4 号議案 2019 年度事業計画(案)

第 5 号議案 2019 年度事業予算(案)

議案はすべて満場異議なく(拍手)承認されました。



<第 2 部> 講演会 14:30～16:30

「栄区の強みと弱み ー私たちはこれからどう備えるかー」

1. 報 告 2018 年の全国の被災状況と栄区の特徴

報告者 中川 和之氏（内閣府 TEAM 防災ジャパンアドバイザー）

2. 基調講演 「災」の年 2018 年、全国の被災地から学ぶこと

講 師 菅 磨志保氏（関西大学社会安全学部 社会安全研究科 准教授）

3. パネルディスカッション 栄区の強みと弱み

～私たちはこれからどう備えるか～

【パネル】栄区地域防災拠点：毛利委員長

栄区民生児童委員協議会：佐野会長

桂台中学校：奥田先生

ボランティアいでたち：菊地氏、

石井造園：石井社長



パネルディスカッションでは、パネルそれぞれの活動の取組が報告されました。講師からは、「今やっている取組だけでなく、発災後を想定した仕組みづくりがなされているようだ。災害が起こらないと効果がわからないので、モチベーションを高めることが難しいと言われている。しかし、日常から災害時を想定することで、より課題が見えてくるので大切にしてほしい。今の社会はリスクが見えにくいのも特徴。活動をし続けることが大切。」とのお話がありました。



地域防災拠点運営委員会「意見交換会」

日時：2019年7月2日（火）14：00～ 会場：栄区役所 新館 4 階

出席：地域防災拠点運営委員 37 名、区役所 4 名

栄防災ボラ 12 名

（宇田川、大森、藤田、佐野、高橋、宇都宮、鈴木、柳澤、村上、松原、吉田、山崎）

交流と情報交換を目的に意見交換会が開かれました。

○栄区役所より「地域防災拠点」について説明がありました。

- ・市内 1 か所以上で震度 5 強以上が発生した場合にすべての地域防災拠点を開設し、運営は地域が主体となって実施する
- ・「避難所」・「情報拠点」・「備蓄拠点」としての役割をもち、『みんなのいのちと健康と安全を守れる避難所』を目指すことが大事である。
- ・『拠点訓練＝防災訓練』を理解し、開設準備や運営についての訓練を実施してもらいたい。2019 年度は、「避難者受付」「トイレ対策」を重点に訓練をしてもらいたい。

○栄防災ボラからは「災害ボランティアセンター」の開設、運営や栄防災ボラの役割（ボランティアのコーディネートや情報収集への協力）を説明しました。

○その後、6 グループに分かれ、グループごとに拠点活動の様子や課題などの意見を交換し合いました。

【グループ発表では次のような意見がありました。】

- ・ 1 拠点で 6 町内会を運営する拠点があり、拠点内の調整が難しい。
- ・ 運営委員が毎年変わるので、継続性を持続させるのが大変。・ 備蓄庫の点検が必要。
- ・ 地形のこともあり、高齢者が拠点に行くのが難しい。
- ・ 横浜市としてコンビニとの連携が必要ではないか。・ 小学生対象に防災講座を実施している。
- ・ 防災に関する DVD を作り町内会での啓発に活用している。
- ・ 避難者カード作成・区割り・トイレ設置など行った。初参加の人に炊き出しの手伝いや意見を聞き、関りを持ってもらうようにしている。
- ・ 図書館が災害ボランティアセンターになっているのは、早急に考えなくてはいけない。
- ・ 栄防災ボラの活動について誤解があったが、意見交換会を重ねることで解消されてきた。

（山崎）



会議中宇田川代表より、ボラネットの平常時の活動として、防災率の UP につながるよう防災講座等の講師派遣を行っている旨の説明がありました。最近の講師派遣による講座の様子を紹介します。

桂台自治会防災講習会

日 時：2019 年 6 月 8 日（土）10：00～

参加者：宇田川、宇都宮、大森

自治会回覧で周知された講習会に約 40 名の会員が参加、建築関係の企業からは住宅の耐震化について具体的な対策や価格等の説明があり、多くの質問がありました。ボラネットはパワポによる解説、通電後の火災、家具転倒防止などについてお話しました。（大森）





「わ～くらぶ・さかえ」の 防災・減災への取り組みについて ～障害者のマンパワーを引き出せ！～

東日本大震災後から、わ～くらぶ・さかえでは年に2回避難訓練を実施しています。栄消防署の指導により作成したシナリオ（想定された災害）で訓練を行います。「まんねりじゃん！」と思われるかもしれませんが、この毎回同じ訓練が実際の場面で重要になることを痛感しました。

あの大きな地震でも、落ち着いて行動が取れたのはこの訓練のお陰と思っています。

また、訓練に加えて様々な講習会も企画し、防災・減災に取り組んでいます。

職員が意識するのも大切ですが、利用者さんやボランティアさんも一緒に考えて、日頃から防災・減災について意識していくことが必要だと考えています。

とくに関心が高かったのは、栄区防災ボラネット青木さんが行った救命救急講習会でした。

救命救急講習会では、人命救助の方法→A E D（ミニアン）を使用した心肺蘇生（救急救命）と使用方法を学び、参加者全員がミニアンを使用し同じ体験をしました。

この講習会を通じて感じたのは「障害者だから出来ない！」ではなく、「障害者でも出来ることがある！」そうだよね！人が倒れていたら人を呼んで助けを求めることはできる。「心肺蘇生も片手で行える！」障害者でも人助けのお手伝いはできる。災害時や人命救助などの場面においては、こうした経験を生かし行動することで、障害者の方でもマンパワーになり得るのだと参加者全員が痛感した講習会となりました。

防災・減災への取り組みについて今後の課題（まとめ）・・・

今日も千葉県で地震が発生しました。最近、大きな地震や自然災害が様々な地域で起きています。これから来るかもしれない大地震や自然災害に備えて、着実に準備をしないといけない。わ～くらぶ・さかえでは、「地域での防災訓練などに参加」したり、活動中の「地震や自然災害時の対策についての強化」などの課題も残っています。利用者さんのマンパワーも活用しながら、こうした課題解決に向けて防災訓練や減災対策など進めて行きたいと考えています。今後も、栄区防災ボラネットさんのアドバイスも頂きながら、こうした課題や対策について取り組んで行けたら良いと考えています。

（高橋）



わ～くらぶ・さかえ

横浜市栄区中野町 31-1

TEL・FAX 045-892-5536

脳卒中等の後遺症による障がいのあるメンバーが、仲間と楽しみながら活動しています。

押し花、木工、和紙などの製品を手作りし各地のお祭りで販売するなど、地域との交流を深めながら自立した生活を目指しています。

－活動報告－

2019 年度 第 1 回災害ボランティアネットワーク Bブロック会議（港南区担当）

日 時：2019 年 6 月 18 日（火）18:30～20:00 場所：港南中央地域ケアプラザ

参加者：宇田川、藤田、早福、鈴木、山口

今回の B ブロック会議では「連携」というテーマを基に様々な視点から連携について、検討・情報交換が行われました。前半は横浜市災害ボランティアネットワーク会議との連携という視点から、2018 年度に B ブロック会議で実施した無線を用いた訓練について、幹事区であった金沢区より内容や成果について発表してもらい振り返りました。後半は主に 3 つのテーマ（災害ボランティアセンター使用様式の統一について、地域防災拠点との連携について、社協との連携について）でグループワークを行いました。地域防災拠点との連携に課題があると感じている意見が多かったです。他区の取組を参考にしつつ、栄区でもいい取り組みを積極的に発信し、他区との連携をより深めていくことが望まれます。 次回：2019 年 10 月 15 日（火）18:30～ 幹事：磯子区

横浜災害ボランティアネットワーク会議（研修会・総会）

日 時：2019 年 6 月 27 日（18:30～21:00） 場所：横浜市健康福祉センター

参加者：宇田川、藤田、早福

総会に先立ち、研修会が行われました。横浜市総務局危機管理室防災企画課の担当係長：小林栄治氏により横浜市防災計画「風水害等対策編」の修正について説明ののち、予定時間を超える活発な質疑応答がなされました。・災害時のボランティア活動等現場でのトリアージに関してはどのようなになっているのか（現場で行う）・地下街のハザードマップはあるのか（計画の中で対策が取られている）・風水害対策編の入手方法は HP 以外にないのか（公立図書館、区役所にある）・防災計画運用について市庁舎内での周知、教育訓練がなされているのか（課長係長での周知教育はしている）等やボランティアの育成や区との連携に関して訓練方法など統一すべきではないか災ボラがリーダーシップをとって一斉訓練をしては、等の意見も出ました。

総会では、運営委員として我がボラネットの追加が認められました。会議には 3 つのテーマ別実行委員会があり「区災害ボランティア連携班」に所属することになりました。

早速 7 月 22 日に実行委員会があり、役割分担、班の中での今後の検討事項、スケジュール等の打ち合わせがあります。終了後懇親会に出席しました。（早福・藤田）

防災講座協力 さかえ日本語の会

日 時：2019 年 7 月 14 日（日）13:30～

場 所：小菅ヶ谷地域ケアプラザ

参加者：宇田川、宇都宮、大森、藤田、村上、山崎

内 容：①非常用炊出袋で炊飯・ホットケーキ作り

②講座（大震災動画＋パワポによる解説）

③家具転倒防止用品等展示・説明

④試食（依頼者準備の非常食含む）

「さかえ日本語の会」で、日本語や生活習慣を学習している外国人のための講座で、多少言葉の壁はあったが、動画や実習・試食などを取り入れ「命や生活」を守る基本を示しました。

（大森）



※防災講座協力：横浜栄・防災ボランティアネットワークでは、随時ご依頼を受けています。

日時・内容については右記へお問合せください。 栄区社協：TEL 045-894-8521